人権協地区委員会活動の紹介

東山田地区 現地研修会　多くの学びと交流があった「ウトロ地区・西本願寺」

12月12日、マイクロバスを使った表題の現地研修を実施しました。研修に先立ってウトロ地区についてDVD「ホームタウン朴英美（パク・ヨンミ）のまち」を事務局からお借りし、在日コリアンとの共生について事前学習をしました。また、チラシを作成し参加を呼びかけました。当日、参加者は15人で「ウトロ」に向かいました。車中では、人権協クイズで楽しく事前学習をしました。

ウトロ平和祈念館では、金秀煥（キムスファン）副館長からウトロ地区の歴史・祈念館について講演がありました。「戦中、飛行場建設のため集められた。戦後も差別が続いた。でもウトロの人々は沈黙しなかった、その声は、日本の人々、さらには韓国まで届き、支援の輪が広まり、安心して住める場所になった。」とのお話でした。過去の民族の悲惨な戦いを思い出し、如何に共生社会が大切かをあらためて学びました。館内は、資料・写真が展示され講演の理解が深まりました。

昼食後、西本願寺の「お西さんを知ろう！」ツアーに参加しました。若い僧侶の案内でしたが、お寺の歴史だけで無く、煩悩についてお話をされました。人につきまとう煩悩は、人間の差別性と重なるようにも思え、興味深いお話でした。多くの事を学び、交流も深まり、有意義な現地研修でした。

東山田地区代表　**後藤 孝司**

吹二地区・吹南地区 共催活動報告　アフターコロナに向かって ～コロナ後の中学生へのサポート～

吹二地区人権協・吹二地区公民館・吹南地区人権協・吹田南地区公民館・六中PTAの共催で令和５年11月25日に第六中学校にて人権講演会を開催しました。アフターコロナに向かって～コロナ後の中学生へのサポート～と題して第六中学校　須藤渉校長先生にご講演をいただきました。

先生は大学を卒業してから数年間は教育以外の場所で仕事をされ、その中で様々に経験され、教育者になられました。子供は一人ひとり違うということ。又子供たちはコロナを乗り越える力は持っているということ、子供達への支援のあり方は学校教育の目標である、社会人として独り立ちできることを念頭におかれていました。

成功の体感を与える事。具体的に伝える言葉はどうしたらいいのか。彼らは何をしたいのか、何ができるのか、選択肢を用意して、自分で解決することが大切。大人の心がけとして完璧を求めない、差別心を持たない、人を思いやる、感謝の心を持つ事。お聞きして、個性が異なる一人ひとりに寄り添い、その子の心の声を聴き、その子にあったサポートをする、子供自らが解決してゆく。それを支えるのが先生であり、親であることを感じました。子供も先生も、両親も互いに成長してゆくのだと思います。

吹田南地区代表　**松本 博雄**

あなたも人権啓発推進委員になりませんか！

人権啓発を目的に、各地区でいろいろな活動が行われています。あなたも人権啓発推進委員になって、一緒に活動しませんか。下記の人権協事務局までお問合せください。

発行／**吹田市人権啓発推進協議会**
事務局／吹田市 市民部 人権政策室内　〒564-8550　吹田市泉町1-3-40
電話 06-6384-1539　FAX 06-6368-7345　E-mail suitajinken@wi.kualnet.jp

吹田市 人権協だより

じんけんネット吹田

No.54
令和6年(2024年)5月

2,3面：施設訪問「吹田市国際交流協会SIFA」　4面：地区活動の紹介

―2024― 憲法と市民のつどい

～地域から、心をつなぐ人権の輪～

日時 5月18日(土) 13:30～16:00
(開場 13:00)

場所 メイシアター 中ホール

入場無料
申込不要
手話通訳あり

講演　立憲主義下の硬性憲法の解釈・運用 ～憲法は変わらないが変わる～

講師 君塚（きみづか） 正臣（まさおみ） さん（横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授）

■ プロフィール

1965年生まれ。1988年に大阪大学法学部を卒業後、同大学院で博士号を取得。関西大学法学部助教授などを経て、現在は横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院 教授。

日本公法学会や日米法学会などの学会、男女共同参画に関する諸外国の基本法制等に関する調査研究会や個人情報保護運営審議会の委員などを務め、社会的な課題にも積極的に取り組む。

著書には、「憲法の私人間効力論」や「司法権・憲法訴訟論」、2023年には「憲法―日本国憲法解釈のために」を出版。このほか、高校の現代社会教科書の執筆者、「高校から大学への法学」や「法学部生のための選択科目ガイドブック」などの編者として高校から大学院における法学教育に関する研究と提言を行っており、若い世代の法学教育にも力を入れている。

公演　手話が繋げる明るい未来

出演 強力（ごうりき） 翔（かける） さん（手話パフォーマー）

■ プロフィール

手話歌をはじめ、弾き語り、バンドセッションなど、マルチに活動するボーカリスト。

高校時代に『ゆず』に憧れて弾き語りを始める。テレビドラマ『オレンジデイズ』でろう者に気持ちを伝えることが出来る手話を知り感銘を受け、手話で話せるようになりたいとの想いから手話を学び始める。

手話を活かしたボランティア活動を続けていく中「人々の力になれる自分しか出来ない応援」を開始。その活動が認められ、障がいがある人、ない人が参加する『みんな違って、みんないい』がテーマの全国で行われている「とっておきの音楽祭」りんくう大阪の公式アンバサダー就任。関西から全世界へ手話パフォーマンスを発信中！

吹田市人権啓発推進協議会「代表者研修会を終えて」

1月13日（土）年明け早々に、メイシアター集会室において43名が参加する代表者研修会が行われました。

「ヤングケアラーが『いきる』社会へ」と題して、ふうせんの会の正会員（元当事者）朝田健太様に御講演をいただきました。急な御事情が出来てオンラインによるリアルタイム形式の研修会となりましたが、とても分かりやすく質疑応答もスムーズにできました。

今回の研修を通して、ヤングケアラーだけでなく一歩進んだ「全てのケアラーに価値があり、ケアラーとして（生きる・活きる）価値のある社会を目指す」というような、これからの地域の活動に役立てていかなければならない在り方を学ばせていただきました。

代表者研修会実行委員長　**津田 郁夫**

施設訪問

「公益財団法人吹田市国際交流協会SIFA」

～多文化共生について学んできました！～

SIFA ×

じんけんネット吹田

※SIFA SUNとは…吹田市における多文化共生社会の実現を目指し、その確かな歩みを照らすシンボルキャラクターです。

SIFAのあゆみ

昭和57年（1982年）に吹田市国際交流協会が発足。
平成3年（1991年）に国際交流等活発な市民活動を市が後押しし、財団法人吹田市国際交流協会が設立。
平成25年（2013年）に公益財団法人吹田市国際交流協会へ移行
財団設立から31年間、ボランティアに支えられ、様々な事業に取り組んでこられました。

SIFAとの対談

現在の主な活動は何ですか。

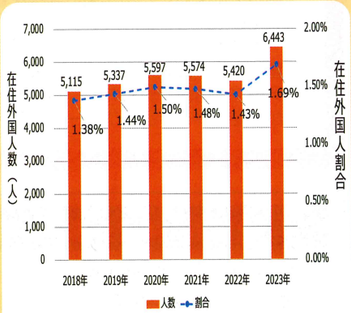
- **日本語教室**
  日本語教室の開講(初級・入門・中級）ボランティアによる日本語交流活動、日本語発表会の開催
- **吹田市多文化共生ワンストップ相談センター**
  在留手続き・雇用・医療・福祉・出産・子育て・子供の教育など暮らしの中で困ったことを多言語で相談できる相談窓口の運営と相談ホームページにおける行政情報の発信
- **多文化共生推進に係る事業**
  国際理解講座、外国にルーツをもつ子供の放課後居場所づくり及び学習支援、コミュニティ通訳ボランティアの育成・スキルアップ研修・派遣コーディネート、外国人ママ・パパの居場所づくり、防災減災事業、多文化共生講座ほか

多文化共生ってどのような意味でしょうか。

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。多文化共生はこれからの未来に必要不可欠な取り組みです。

吹田市に在住する外国人の状況はどうですか。

2023年4月1日時点で、95の国・地域から、6,443人（吹田市の人口の1.69%）の外国人の方が吹田市で暮らしています。2020年以降コロナ禍の影響で減少傾向にありましたが、2023年には再び増加しています。



資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

国籍別人口

中国	2,308人	韓国・朝鮮	1,775人
ベトナム	507人	台湾	271人
フィリピン	181人	ネパール	178人
インドネシア	164人	米国	140人
インド	88人	タイ	70人

資料：住民基本台帳（2023年4月1日現在）

SIFAは公益財団法人になって10周年とお聞きしました。いままで、力を入れてこられた活動は何ですか。

SIFA設立当初の31年前は、スリランカ・オーストラリアとの友好交流都市活動、ホストファミリーボランティアを中心とした活発な市民主体の国際交流の支援から始まりました。

公益財団法人へ移行してから10年経つ中で、社会の変化とともに協会の事業もホストファミリーなどの国際交流から多文化共生推進のための在住外国人支援に事業の重心が変わってきています。

多くの事業の中でも、「**日本語教室**」は資格を持つ講師のいるクラス形式と日本語ボランティアと学習者がともに学び合う場としての日本語教室があり、大変活発な事業です。しかし、外国にルーツをもつ子供たちの増加も顕著で、子供たちのための日本語教室などのニーズに応えきれていない部分もあり、今後もさらに活動の場を広げていきたいと思っています。

ボランティアによる日本語教室

また、「**吹田市多文化共生ワンストップ相談センター**」は近隣市の状況を勉強して令和4年（2022年）に立ち上げました。英語・中国語・韓国朝鮮語・ベトナム語・インドネシア語・ネパール語・ポルトガル語の多言語相談員が活躍しています。

今後の展望、目指すところについて教えてください。

やりたいこと、やらねばならないことがたくさんあって、全く追いついていないというのが実情です。

その中でも、外国につながりを持つ子供たちとその保護者の支援は重要な問題だと思っています。その際、それぞれのアイデンティティを大事にしながら豊かに暮らしていくことができる社会を目指したいですね。

日本では「多文化共生」が達成目標といったイメージですが、欧米では次のステップに進もうとしています。多様な社会的背景を持つ人々を互いに認め合うだけではなく、互いに交流することにより、それぞれの違いが新しいアイデアや創造力を生み社会を活性化するという考え方です。「違いを活力に」です。SIFAとしても、その実現を目指して邁進していきます。

あとがき

「みんなちがって、みんないい」（金子みすゞさん）という詩があります。多文化共生とは、異なる文化や価値観を持つ人々が、互いに理解し合い、共存する社会を目指す考え方です。この考え方は、「みんなちがって、みんないい」という言葉と共通する部分があります。多様な文化や価値観を持つ人々が、互いに尊重し合い、対話を通じて理解を深めることが大切です。一歩進んで、異なる文化や価値観を持つ人々と接することで、自分自身の視野が広がり、新しい発見や学びが得られるかもしれません。違いを活力にして、共存する社会を築いていくことの大切さを学んだ施設訪問になりました。